

第1回網走湖汽水環境保全方策検討委員会の開催概要

資料 1 - 1

【開催日】 令和2年12月14日（月） 14:00～16:00
 【開催場所】 林-ツツ・文化交流センター 2階大会議室



写真1-1 開催状況

氏名	所属等
巖倉 啓子	土木研究所 寒地土木研究所寒地水圏研究グループ水環境保全チーム 上席研究員
駒井 克昭	北見工業大学 工学部 社会環境系 准教授
佐々木 義隆	北海道立総合研究機構 水産研究本部 網走水産試験場長
園田 武	東京農業大学 生物産業学部 海洋水産学科 水産増殖学研究室 助教
中山 恵介 (委員長)	神戸大学大学院工学研究科 市民工学専攻 教授
三上 英敏	北海道立総合研究機構 産業技術環境研究本部 エネルギー・環境・地質研究所 環境保全部 水環境保全グループ 研究主幹
吉川 泰弘	北見工業大学工学部 社会環境系 准教授

表1-1 出席された委員名簿 (敬称略、五十音順)

「委員会の概要」について	規約（案）の第2条にある「汽水環境」とは、シジミやサケ、マス等の水域に存在する水生生物も含めた表現であることを確認し、規約（案）について委員の了承を得た。
	検討スケジュール（案）について、委員の了承を得た。
「汽水環境保全方策の考え方」について	検討に使用する解析モデルについては、今後の対策効果に関する詳細な検討に必要な再現性の高い3次元高精度モデルの導入を検討することを確認した。
	汽水環境の保全を図るための方策として、淡水層の塩分上昇方策を試行的対策として検討するとともに、長期的な対策を今後検討していくことについて委員から合意を得た。
	引き続き塩淡水境界層の上昇を抑制する必要がある。
	塩水層（貧酸素、高塩分水）全体の水質改善は現実的に難しい。
	塩水層と淡水層を混合させる対策はリスクが大きい。 塩水層と淡水層は密度差が大きく混合させるには大きなエネルギーが必要となる。